

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103839号		
法人名	社会福祉法人 中江報徳園		
事業所名	グループホーム サンひまわり		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 下伊敷一丁目 44番11号 (電話) 099-218-2045		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月7日	評価確定日	平成21年8月1日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 14人	非常勤 3人 常勤換算 16.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.4歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 玉水会病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通の便が良く、家族や知人が訪問しやすい市街地にあり、短大や小学校が近くにある。入居者・職員は地域の一員として、公民館活動や祭りに参加している。ボランティアや実習生の受け入れなど積極的に進め、趣味や生きがい作りなど、入居者の思いを尊重した暮らしを支えている。研修会や勉強会・資格取得に挑戦する人など、法人全体で職員の質向上に取り組んでいる。協力病院との連携や多種資格を持つ職員が理念に添って協力し、入居者の自由な暮らしを支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善点の理念の共有と日々の取組については、改善計画シートを作成し、全職員で話し合い、法人理念と合わせ、ホームの理念についても朝礼や職員会議等で唱和して共有し、理念の実践に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は評価の意義や活用方法について話し合い、用紙を配布し全職員で取り組んだ。項目に沿ってケアの振り返りを行い、改善点を話し合いサービス向上に活かそうと取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的開催し、入居者の状況やホームの取組など報告している。委員からの情報により、地域行事への参加につながり、運営推進会議での意見がサービス向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年1回の家族会や運営推進会議に家族代表に参加してもらい、家族から意見や要望を表す機会を設けている。意見等は職員会議等で話し合い、運営に活かすよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内会行事の活動や祭りなどに参加している。地域の小学校の運動会や文化祭に応援や作品を出展したり、ボランティアや実習生の受け入れなどを行い、地域住民との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基に全職員で話し合い、地域密着型サービスとしての役割を考えた「ぬくもり・あんしん・確かなおもてなし」をホーム独自の理念として作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や職員会議等で理念を唱和・共有し、入居者に家庭的なぬくもり・地域の中での安心・確かなおもてなしのサービスで過ごしてもらえるよう、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事の活動や祭りなどに参加している。地域の小学校の運動会や文化祭に応援や作品の出展をしたり、ボランティアや実習生の受け入れなどを行い、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義や活用方法について話し合い、用紙を配布し全員で取り組んだ。項目に添ってケアの振り返りを行い、改善点を話し合いサービス向上に活かすよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況やホームの取り組みなど報告している。委員からの情報により、地域行事等への参加につながり、運営推進会議での意見がサービス向上に活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議録やひまわり通信など持参し、日頃より手続きや情報収集などで連携を図り、共にサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者の様子を書いたそれぞれの「サンひまわり便り」を作成し、行事の写真等を同封し送付している。面会時や電話等で暮らしぶりや健康状態を報告し、金銭管理については出納帳と領収書を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や運営推進会議に家族代表に参加してもらい、家族から意見や不満を表す機会を設けている。不満や意見は職員会議等で話し合い、運営に活かすよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は入居者と職員の馴染みの関係づくりに努めている。やむを得ない異動や離職には、引継ぎの期間を充分に取り入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や法人内の研修に交代で参加し、ホーム内の研修として研修報告を行い内容を共有している。資格取得も積極的に勧め、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、県や市の研修等で、情報交換や交流に努めている。地区の地域ケア会議にも参加し、他のグループホームとの連携も図り、サービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、本人・家族にホームの見学を勧め、ホームの雰囲気に馴染んでもらうよう工夫し、管理者が自宅や病院等を訪問して、家族の協力も貰いながら、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできる事や得意な事、好きな事など把握し、さりげなく支えながらしてもらっている。野菜作りや梅干し、漬物作りなど教えてもらう事も多く、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中の言葉や表情から、入居者の思いや意向を把握するよう努めている。困難な方でも家族からの聞き取りやミーティングで話し合い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から意向や希望を聞き、主治医の意見を参考に職員全員で話し合い、本人がより良く暮らすための、分かりやすい介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日ケアプランチェック表を記録し、3ヶ月毎に評価を実施し、本人・家族と相談して、カンファレンスで計画を見直し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による24時間の健康管理や、家族と相談しての通院介助や受診介助等柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力病院の訪問診療や歯科の往診などがあり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族に重度化や終末期に対する指針を作成し、入居時に説明を行っている。看取りの段階に入ったら、家族・主治医・看護師・職員で話し合い方針を共有し、家族からの同意を得て行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや失禁時の対応など、プライバシーや尊厳を損ねる事のないよう配慮している。採用時に誓約書を取り、個人情報保護について徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事・就寝時間など入居者のペースを尊重し、希望に添って支援している。散歩やレクリエーションへの参加など、体調に配慮しその人らしく過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と買い物に同行し、菜園の野菜を利用して、下ごしらえなど手伝ってもらい調理している。職員とともに食事を楽しみ、下膳やテーブル拭きなどできる事をしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日をユニットで交互に実施しており、希望があればいつでも入浴できる。入浴時間も利用者に合わせている。年1回は温泉に出かけ楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	詩吟など特技の発表会や地域の文化祭に習字などの作品を出展、趣味を継続させて役割や張り合いのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせ、地域の公園などへの散歩や、スーパーへ買い物に出かけている。ドライブや地域行事への参加などホームに閉じこもらない外出の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、外出傾向の入居者は連携を取り様子や動きを見守り、一緒についていくなど工夫して、鍵をかけない家庭的なぬくもりのある暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は消防署と協力し避難訓練や消火訓練を実施している。毎月ホーム内の防災訓練を行い、災害用の備品も備えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員で話し合い栄養バランスを考慮して作成し、定期的に法人の栄養士にアドバイスを受けている。お茶の時間や入浴後に水分補給に努め、水分量の確保を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングはクッション性の高い床材を用い、転倒や下肢への負担に配慮している。台所は対面式でリビングや廊下の様子がわかるように工夫されている。ソファが配置され、季節の花を飾り家庭的な共有空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや整理タンスはホームで設置し、入居者の使い慣れたテーブルや椅子を持ち込み、家族の写真、自分の作品など飾り、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。